

**■ 特別講演Ⅲ（第1会場 13:00～15:00）****歯科衛生士は「国民皆歯科健診」といかに向き合うか**

鶴見大学 名誉教授  
花田 信弘

政府は全国民に毎年の歯科健診を受けてもらう「国民皆歯科健診」制度の導入計画を決定しました。歯・口腔の健康を維持して他の病気の誘発を抑え、健康寿命を延ばすのがこの制度の目的です。現在わが国では、母子保健法、学校保健安全法、健康増進法に基づいて歯科健診を実施しています。この制度で未成年者の歯科健診は充実して実施されていますが、多くの成人は歯科健診を受診していません。そこで、成人に対する定期健康診断や特定健康診査の際に唾液検査キットを配布し、歯周病に関連する唾液成分の検査をする案が検討されているようです。75歳以上の後期高齢者に対しては、唾液検査に加えて口腔機能低下症の検査も必要です。「国民皆歯科健診」に検査が導入されると各種検査の意義や方法について歯科衛生士の再研修が必要になります。例えば一部の事業所で歯周病菌のPCR検査が採用されれば、全国の歯科衛生士はPCRの原理や検査方法を知る必要が生じます。それだけではありません。「国民皆歯科健診」は歯・口腔の健康を維持することによって他の病気の誘発を抑えるために導入されています。したがって歯科疾患が誘発する「他の病気」についての知識も必要です。もちろん歯科衛生士による歯・口腔の健康維持の基本がフッ化物とプラークコントロールであることに変わりはありません。しかし、歯科衛生士が患者に直接介入して8020や生涯28（生涯にわたる天然歯28歯の維持）を達成するためには栄養・運動など生活習慣の改善による生活習慣病（がん、循環器疾患、糖尿病）の予防を目指すことも大切です。生活習慣病と歯科疾患は双方向で互いに関連しており、生活習慣病に罹患することが歯・口腔の健康を脅かす重大な危険因子になるからです。

これからの歯科衛生士は歯・口腔の健康を維持して他の病気の誘発を抑え、健康寿命を延ばす「国民皆歯科健診」に対していかに真剣に向き合うかが問われることとなります。

## ■ 講師のプロフィール



花田 信弘

### 【略歴】

- 1981年 九州歯科大学歯学部 卒業（歯科医師）
- 1885年 九州歯科大学大学院 修了（歯学博士）
- 1885年 九州歯科大学歯学部口腔衛生学講座 助手
- 1987年 米国ノースウェスタン大学微生物・免疫学講座 博士研究員
- 1989年 九州歯科大学歯学部口腔衛生学講座 講師
- 1990年 岩手医科大学歯学部口腔衛生学講座 助教授
- 1993年 国立感染症研究所口腔科学部 部長
- 2002年 国立保健医療科学院口腔保健部 部長
- 2008年 鶴見大学歯学部探索歯学講座 教授（2021年定年退職）
- 2021年～現在  
鶴見大学 名誉教授  
上海理工大学光触媒産業技術研究院  
特任教授（公衆衛生・医療部門長）

政府委員の経歴：

1999年健康日本 21 計画策定委員、2000年内閣府新健康フロンティア戦略賢人会議専門分科会委員、2010年～2015年内閣府消費者委員会委員。

### 【おもな著書・論文】

1. 3DS による口腔フローラ改善療法：口腔病原微生物叢の制御技術と疾病予防  
デンタルダイヤモンド社 2022年 2月
2. [臨床編] 3DS セラピーができる本：歯科で全身が健康になる口腔除菌技術  
第一歯科出版 2021年 3月
3. 学校保健の動向  
丸善出版 2020年 11月
4. 毒だし！舌みがき：ウイルス・細菌を退治して腸をきれいにする健康習慣  
河出書房新社 2020年 11月
5. 臨床歯科栄養学：歯科に求められる栄養の基礎知識  
口腔保健協会 2018年 10月
6. ゼロからわかる 小児う蝕予防の最前線 クインテッセンス出版 2018年 4月
7. 女性の口臭・歯周病はこうして防ぐ！ PHP 研究所 2017年 12月
8. 歯周病が寿命を縮める 法研 2017年 5月
9. 歯科発アクティブライフプロモーション 21：健康増進からフレイル予防まで  
デンタルダイヤモンド社 2017年 4月